



九曜文庫

下

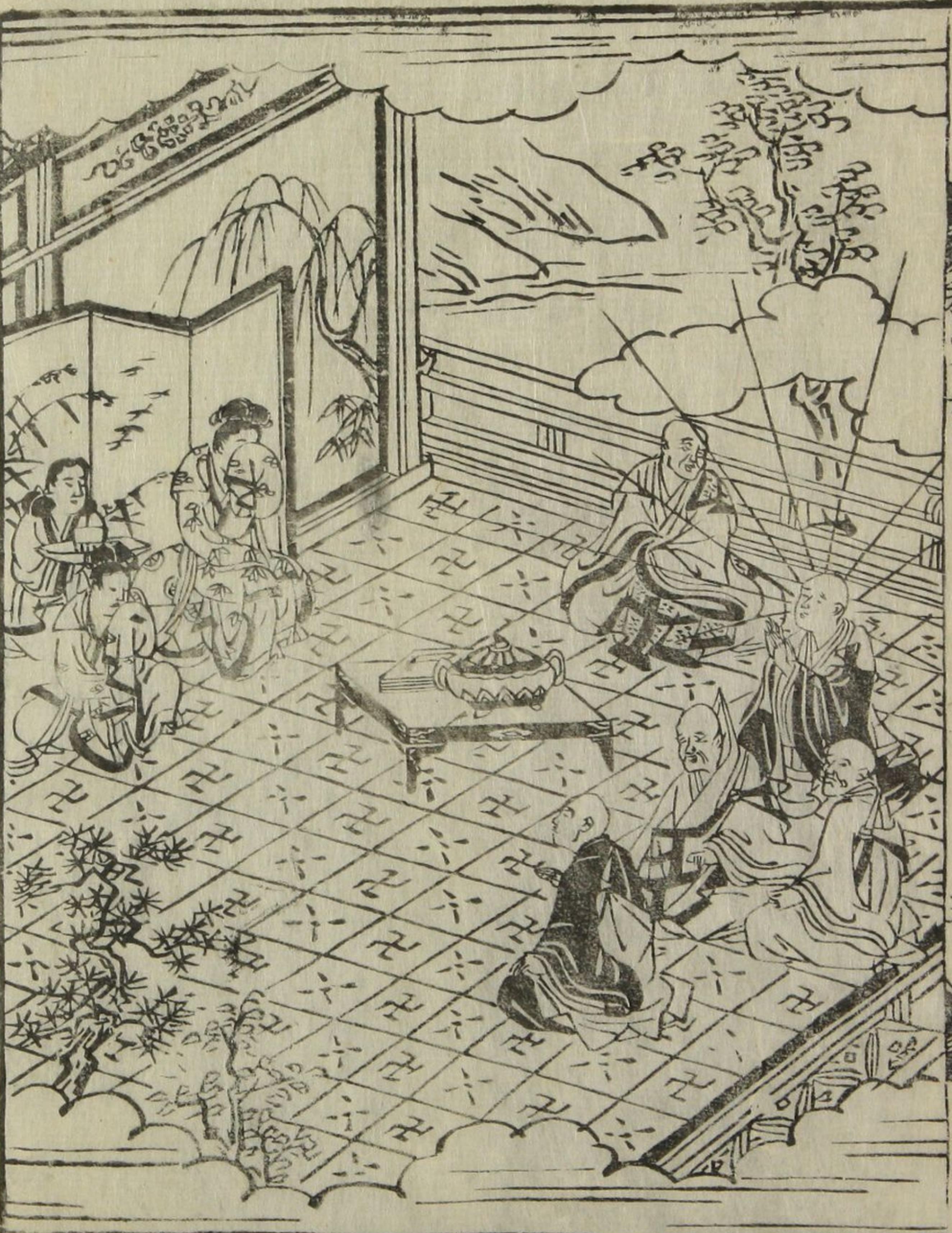
新迦如來耶中地
其後新是の母摩耶夫人ハづくつをうる
ある。いやうれ苦とうります。ゆもんとぞ
ひまくんとぞはくうりとぞ。ありぬ。人年。十二
年。があり。さくまき。ねのわと。まくの
えのと。からむ。三。大。千。世。思。うらや。む。し。
のそ。こ。ま。で。照。て。ゆうん。母。摩。耶。ま。ん。
た。う。と。天。よ。し。ま。れ。ま。り。ま。と。ゆ。く。と。て。穿。
み。ま。り。と。洞。奥。一。セ。初。利。天。へ。の。ぐ。う。お。く。ん。と。一
絆。か。通。た。ま。と。く。新。是。と。天。へ。の。ぐ。う。お。
ド。そ。通。と。ゆ。ま。ん。と。も。う。そ。の。ゆ。通。れ。ふ。と。ぞ。え
ぬ。か。通。て。う。ひ。げ。う。ギ。ね。げ。う。か。う。其
中。み。ち。ん。つ。う。不。通。と。つ。は。ち。ゆ。と。せ。ん。と。あ。ま。

也のびりて。三めぐらすひきて。一力みよ。
三まつとのどくとづくみよきおで。四方ゆもよし
のちことせりて。ぐる圍とな。一切れまと
ちやまゆきう。その時四天王さまま
たれゆ中身。大刀を天神。さくらきい圓廣野
荒事まゆ。身とが。歎色のゆよりよとあり。ひゆと
毛をぬぐひ歎るも。よ二百卒ノ人の毛に
うちられ申ゆ。ぢづき身一れ目連う者よ。ひゆと
縛り取たゞまえへのがりて。毋もゆふ人とぞと
てまくんとまくんで。か通れもあつとゆ。ぢづく
通とまくらぢ。もやくらんせよとのゆくば
もくらうけぬく。ももとやんへうびのがり。兜身
とゆ。ばゆもあんれちもとやんとすへづく

事とあつまつままでありてゆくの如へど。これ
トと摩耶マヤ、まんぐうマングウ、といふやくれの名で
あり、くちれど、たひもくめは、アガテ、み百
人の天アメノヒ、人ヒト、内ナカニ、也ハシマ、やまく、
きて、こびり、ひも、射面アリタタキ、あり、くわら、づる、
紙シ、を、さ、に、アト、よ、き、経ヨリ、べ、さて、まや、ぬ、人の、経ヨリ
ひき、ぬ、き、の、ゆ、中ミ、よ、お、され、紙シ、を、伸スル、い、う、き、ま、や
う、と、り、く、く、み、つ、こ、も、う、づ、ま、と、ぬ、と、な、う、づ
の、紙シ、と、経ヨリ、佛ボク、こ、く、て、の、経ヨリ、ゆ、ま、れ、ち、う、
と、も、く、ん、と、ね、が、り、ゆ、き、と、じ、乳ミルク、と、ひ、二、十、四、人
が、す、ひ、う、く、あ、が、れ、せ、経ヨリ、よ、ダ、入、く、ん、と、内
み、と、あ、う、く、ゆ、く、經ヨリ、の、経ヨリ、と、り、う、と
か、が、く、れ、て、二、十、四、人、を、ひ、ま、し、入、く、う、と、

の守へむしのい。内乳ともうぐりけひ。
あと引立てもぐる。其中の歎うんの内乳を
へりうとめゆく。はれゆまとちう。りうも
えみ新うもえぬとめゆ。めやぬ人佛と
えまう。ひうの恩義の情を因ひてめゆ
りう。あそれとれやなふ。せきわくめや
ら見とれまう。廉とひく。ひく時よめ
らう能とも。今しきれのめしりまう地元を
あれまつ。こも爲とく。かみやうれも喫と
きの上よそ

私の後へ我今解り取る事アリカドナカド一時。
母の事ヨリ多事と取て。通心とね。羅刹若
乃鬼體ナリとの事也。又摩耶夫人の事也。
ち主とうもうか。さばにたゞかくさり。也
年七月とアレにもやをあれど。まことにさき
きて。まよのうらとわき出。うか。ひうぢう
つゝや。おぐり。一也。せひ。ざれど。私と
して。まよのうら。天下よ生きてゆく。たがひよ
泊。おぐり。也。おぐり。おぐり。おぐり。おぐり。
ま人の事也。秋も秋も秋も秋も秋も秋も秋も
も。おひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
と。あら。三み大千世尊と照。一落して母の



金をもあらざるとちまかへすがよてま
人うづひにうれぞ。まゆゑとまねとく
きりきうか。こほのくららくうまひ日。
御みそむやつらとあけくくし。まん
くられの取、じう。こよひく
いはなてたくもどびひめりいよ。だく
わの事、まぬさびかひくとくとく下男
女うづひア。くるひもう三十、天、やうま
て母れきいをひよ。母とく事、二百七十四日。
たとひ一月二日、もろそく。まこと
あり。母のちくよやうとつふ。まくも、まくも
とくえうづひゆうくらがくやたくやくも、とく
とくえうづひゆうくらがくやたくやくも

又わざわざととなくべからむとおもひ
ひふされむ。徳ひくを許すひむりく。ゆきまき
ぬのれたりともうかれどもそぞめ言ひた
まよ。ちよ今いもじあやセシ人そぞうらは
ひび。わざあかくさひあくれ女人なり。なうひひ
ゆくま。ゆきとたづかへてせせりとすひ
くづき。さんや又佛つひよ。鹿野苑よましと
くくくと大冬のうらめでこそり説法ま
あき。かひく圓へきうきめくもん入ある事も
す。ばうにほうううひとくうぐま。えうくも
あくううううう。かくてまご。せううねう
三まくよなうめふうう。歎る。又れそまうか都
うをほよもまと十九を。宿院のとく

ちあれぞ。ひれじうきうきわが色々。
かまうとくやそまうも。云獨殿上人會
吉くもやうよつうま。教その内へとお
りま。せきなとわゆふ。逃げうとくもと
くせきりし邦のうちれ男女きのねな
ぬ。ゆき。中うき。居あたふよれそ。の日ま
れかりひき。はとくせらや。くうじゆきひ
ト。だんきれらひくうり。せんじんのゆきとお
じ。むものくうき。うるくうんあうた多とゆ
陽柳れ風よなうくう。あひもあうき
まう。まうゆき。うきとけまうとげ四ひよ

ててぞかくと爲ひたる。さて三歳よりを生
れ、うそと内へけ。うの音ノトガヌといふ人す
まへてきや。あまてえぬが文もん。いわう
まうて、内をきよゆうと、旅人じゆよ語り道
かかれて。併へやはうみ百人のらうと。下
かづりよ歌謡ひごうと、よこりくとまう。
ゆゆくと歌るとも、ヨリキムタマヤ
をなし。左あたゞ城人の山ふくされど、だ
みに移ひうる。たゞひね別よゆ度ありと。三
毛のあきなき思ひよ。ばくしてあきゆく
まますうぬそんもうれたりとよアセ。凡なまき行
ひく秋の暮深の夜、まこと度もまぬつひよ。の
くすと居まつて、おもてと又もとの
よひく。うちづきゆきよ。うひいと
うれ用、うらうらう。別ならぬえをかんとけ絶
つばすの四年、またぐれりよ。うきよ。を
なまかみつて、まくまくとなげきゆ。を
あたへれり。うれりよ。うきよ。あせ
つふきのと。このひのよどりゆきよ。二歳の
うううよわゆをまうて。三百人の音うらう。う
ぬす。むの音うらう。うれうらう。うれうら
う。歌みの聲わらう。おやと思つて、うたう
まうきと。うらう。うの肉うらう。うらう
金うらう。女の心へうらう。うらう。うらう
う。浮飯玉とくろめをうらう。うらう。うらう

とあざやかに見えまつた。うらうらの百人方
の中とうきりくらめく跡跡。ゆうぐくに
かかはるときもとをもうほめて。こよどりに
あやせと母の跡ふうて。仲のゆひざみ居候
まつは松毛三十二さう八半をあごう。まくら多
くのまくらうそまくらまくら。店あらたうづ下
もたまのうらめしくんき附よあまうづる、
びきのまくらゆまくら。佛とまき草一意些れ
まくらまくらわるれとの古源とたゞくら。
津飯玉とくめをもりて。鄰れ田のくくん有
む心ならん。これたりとととちがうなあ。親の恩
愛の孝うへたるやうをうれじつひぢもと
生くせしのりんえんぞなりうるよがの。まくらあ
うがくまくらまくらまくら。まくらの秋田如まくら
まくらうらまくら。あれゆうゆうよまくら。まくら
まくらうらまくら。中身いふあへばうび黒毛と
うりきまくらの縁へど。歎き善そひ縁も。妙
法の二字とたれり縁へど。縁を打てぬと
うりきまくらの縁も。ありけれれれれれ中
よじうみ妙法の二字ととくめく縁よ。隣なま
うりきまくらをあざじき縁へど。歎き善
ての縁へど。たとへど。ゆりんまゆどりの東小西ナ里
みだひもじうら。そのもくまくらじく。どのものに
多いゆえ。死せばとゆうな。一枚一葉のゆう
かくゆうじく。その本一叶のくまき事。四十室下
ひづづきもれせんじんの。まくら二葉よわい

うきそきのあらわし。うへて四す室をひ
うふ。されも段をや。うなじくそれよおひ
ゆうちも。おひきうろぐとく。前生の事
むねうれい。うんをも。しがりがとく。あがくとく
え。妙法れんくらん皮傳。せんぐのうりうく
めうりしなう。まうごびう。うごびうが
しめびくばとのみひけまを。あきうちに
うちびくとく佛とく。はなよ歎仰。うき
うれ。うてねくを務るよ。ひうううゆせん
きのうとくとくとく。佛のあれりとくにま
く。おひえ。おやとれくとれくとれく。阿難
をく。おやうかの。大目連。おまくまく
あやめ佛よ。ま



をぞきて令とたもうえありとへ御事マサニとぞ
おどりてまゝのゆゑ中マツシにゆくも思ひつ
身。林マツシちりなくせぬしては我病マヤシの床マツシ
せんとゆそほへど。まことに思ひつゝ
りぞくしてだりくまつりそまづくまづ
たみなまびらにともゑの世マツシぞとそも思ひ
れりやうかなうりかくまづりよ伊マツシる
けりまうがまく二入マツシきておも一人を
もたどりもとんとちやうじゆうれうぎう
ありまうなまへうひしで。ばゆせんぐくもる
りとよそれどこそりが苦惱ガダニとぞそくひは
ひけり。も時マツシれまうとよハ餘マツシりカク。その時マツシ
あたとくよへ今れわが身マツシとぞもあくと
くよく海マツシに是マツシかくす。す方マツシ死生マツシと。くわ
くまよどもどもう事マツシへひゆへよきもの懸念マツシと
思マツシが。ドりかくみ。翁マツシんがおみねがじからまと
の終マツシがくい。もやうもくし。里マツシとく行マツシはく
れが。まひひく。あくら歎マツシくせいでつまむのわひ
た。さくらゆかくりゆかれて。大樂若マツシと。穀マツシひで
一切マツシある。讃マツシ一宣マツシれ。と。情マツシく。一め
て四十二子マツシのはれ。渡マツシつやうもせんみかかりそ
まひて。さくら。法義マツシと。穀マツシひで
さうのうかひ。まのうくまいもひ。中
ひ確マツシあり。かたくじみを。されど。おまかく

まくじ。やまとひのゆどとうかうして。かうとく。
ぐふとく。一日一死れあひどよ涅槃經と云ふ。
ありあつまうりくの衆生へんとうへなま。
そせりれ難ひ。ぬひて。百丈もくやうじの
内身との内身。身もくやうじ。うこうの衣を
ぬぎたげぬひて。おんこんトミルもくとく
リ。おまゆくたまゆるけり。くの身。
見ゆむし。じつやうくみやうて。ゆきもく
みくもくあくと。わゆがうす。タバミムキ
ゆく。おゆく。おゆく。おゆく。おゆく。おゆく。
身大一もくんよこて。今ぢくわくせうで
あゆとくまで。一切衆生とくらまくおさとせ
あくとねく。繫りつもく。うきく。うきく。
もうや。かうくゆく。おねえ後よく。けうんと
ではつまそ。今まくへ涅槃に入りんといひ。がく
まくまとくく。おゆきうごんのみえひかとくまく
かくくせりれ度にまく。こく人のぐうう。
ゆきく。うゆく。まく。うゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
まくよつり。くのゆく。我まくにゆく。入
くと。がくちく。まく。ゆく。ゆく。ゆく。
うんかく。うとく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
一ゆく。れく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
まく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。

三十二で三十二のあら人のとぐれもあ。比
よりんがとつぐくのいくのねよもぐくか
引ひきやうれ草木まで。みれねうもくせ
援援何のあくううと。みのとく七日がる。とまく
てすくと。みよまでも花うに。ものとをむ
もひ。善梶樹の葉も。ハ涅槃と。もく
く。もくちゆく。やんだんも。儀よくき。うへや
きり。うりのむと。おくれど。おくれど。れなもど
なく。うかく。かや。ち日うちま地よくまく
ちやう。うれやく。うへうへ。うらうらにくれ
ひく。えづれせうり。佛のううがうと。おぐれ
まく。うのうう。方室れをく。はよたど。
あせひじれ山ひも。うまく。うめぬく。うめ



妙りよ菩薩もうまくあきこめて。左へあつてゆりゆく。中よみ三百人のゆ
りゆうち。帝釋だよりゆくて。かじりたりも。
釋迦のゆくせはひ。セウノ内よのゆく
て。一代もやうり。ととくにゆく。ゆくだ。らしくら
何を承る。統れ候つべ。わまくゆく。ゆく
のそり。ゆくめきとぞ。さのよまとちん玉持を
れ。空教とだよまくはくや。もれわゆきあ。く
いさんや。あ世の人生のまよくんまされ。うきま
と。詔きゆくかく。阿難ハ百日間。うきよア
くちきひく。がくしきもつまうんをやうとれたを
けぬ。風ようまきて。とんろいとうあ。まゆ時。佛
の氣はゆくのゆく。汝三劫九えたりとて

もとぞれ。三身のすばらしさなり。我一代を
聖教とぞみあへし。と。はりの爲ひ。
けり。業とぞもほりて。嘆歎き。ゆきけり。
うえうち。一代を聖教とぞみぬれり。
そろよ。お難と。とくとくとおもふ。我の
ゆく。教まれぬ経は。たゞ。八十あれ続はる。
お難ハ幾の二十三年とぞ。ぢやくりてき
ま。二十一年とぞ。ゆきけり。教く。うどん
うんより。むりよ涅槃のゆく。よづくまで。さひのん
くくらめ。お終り。たまわりもれぬ。いくまくた
ふ年れあり。さうがく。うかうかと。お終ふと
とめく。お終ひけき。お難のゆく。また年
のね。後二十三年よりて。ぢやくりんきくとて

跡をまのとくらうてかられの。そりておま
いよきゆき。ひだれ戸とそも細て。すげ
とくりく。ひくざんとくま。まがひる
へゆきとのけん。お難あづく。秋もとくじん
をくずゆき。則ぐてうきのりぬく。やまと
りてのせりゆれり。よより。びりく。内に
みく。らうんくられ云。けんのわく。ゆく。
ちぢりあはせんよ。井。八重。八重。八重
四重の。あと。うく。うく。え。ゆく。さ
く。うく。と。どのくの。ゆく。ひく。れど。お難の。く
もよ。ながい。と。一代。か。敵と。続。ゆく。さの。く
らうん。を。難。よ。り。た。く。お難と。井の。く
く。ま。と。井の。く。く。井。

向松堂藏板書目	京都寺町三条下ル町 書林 やまとぎや 宗八
釋迦八相物語	五冊
同 一代記繪抄	二冊
同 一生記	三冊
律苑行事門辨 諸惡集作	十冊
空華隨筆 同作	二冊
校起請諸說辨斷 同作	一冊
聖德太子佛法讀註 同作	一冊
戒法隨身記	三冊

よめのうとうとひ。二ふハ初也。乃羅とダヘド
後よとうと。三みハたうの初也のなり。は
て経は一経よ。うさうさうさうさうさ
えううんうら。だくゆくゆくゆくゆくゆく
そき。乃羅。彼也。とのくうきそくめで。末代のれいを若
きよ。利益もと。との経ひ。うすす人のうづ
じくねぬはとちやうあう。と書は。破り。は
きあく山のたまう。やもやうれねのえく。まく。いに
す。筆あみのまく。もる山の石を
ひや山のたまう。やもやうれねのえく。まく。いに
耳。そとびく。乃羅のせうかう。と。く。うり。下
へ。うんうち。一口。口。あく。あく。と。おもて。

大光普照集 同作 三冊

以呂波門辨同作 一冊

念佛禪秘要藏 同作 一冊

往生至要次略解 高矣作二冊

三部假名抄言釋 二冊

厭求和尚行狀記 一冊

臨終節要 二冊

淨土勸化和讚 一冊

念死念佛集 一冊

愚迷發和次抄 一冊

淨土四要義 一冊

西方經路 一冊

勸修念佛記 一冊

念佛追福編 一冊

淨土唯心史 二冊

善惡業報因緣集 五冊

自安上人の年子をまかし人顯は
るの間をよきいへきんりじらく

道教砂子戲白泉和作一冊

念佛 双紙 一冊

同 寶觀音靈驗記 五冊

西國三子の本の教をまの由ましめ
ま今あまよもあらへまとめり手

洛陽教主冥驗記 一冊

同 宝場記 七冊

都さうそくのゆまうとまう

白隱施行散 一本

同 圓光大師前知錄 二冊

同 盡孝說 二冊

同 後集 日

同 百化園 日

同 說法身身空 日

同 百化園 日

同 賢門子行狀記 二冊

同 明惠上人革袋 二冊

同 兵庫筑島傳 二冊

同 盤桂禪師法語 二冊

同 遺教經私抄 和解書二冊

淨觸 法要 一冊

雲說和尚利益傳 二冊

人尚の状法を念ねまほの尼士をま
くみかのうのまくわとまくす

一言芳終句解 一冊

證禪和尚行狀記 三冊

同 繢 編 一冊

奥羽念佛驗記 無註和作三冊

淨土要田各抄高矣作二冊

一休佛鬼軍 休和作一冊

土砂勸信紀 明惠和作三冊

白隱施行散 一本

同 圓光大師前知錄 二冊

同 盡孝說 二冊

同 後集 日

同 百化園 日

同 賢門子行狀記 二冊

同 明惠上人革袋 二冊

同 兵庫筑島傳 二冊

同 盤桂禪師法語 二冊

同 遺教經私抄 和解書二冊

淨觸 法要 一冊

聖德太子實錄	二冊
同 善會	六冊
因果物語	二冊
因公事のひうじとまもく 古今急葉のひうじとまもく 圓果とあらへるわくわくあ あらむちうじくわくわくあ 忍俊和尚端記	一冊
淨菜蓬進	一冊
阿彌陀裸物語	二冊
子住妻後	一冊
蓮如上人代記繪	三冊
同 一生記	六冊
上人代記繪	一冊
看命掌金和解	一冊
略述大乘戒義	二冊

亦叟念佛記	一冊
同 妙訓	一冊
同 仁和萬	一冊
天桂禪師法語	一冊
慧廣	一冊

